

競技職種実施要領

和裁

Ver. 2_2026年8月17日



本競技職種実施要領は、以下の内容で構成される。

1	はじめに	3
1.1	競技職種の名称	3
1.2	競技職種に関連する職務または職業の説明	3
2	技能五輪全国大会職業標準	4
2.1	技能五輪全国大会職業標準（項目及び配点率）	4
2.2	技能五輪全国大会職業標準（項目とその内容および相対重要性配点率(%)）	5
3	採点方法、採点基準とその配点、公表方法	8
3.1	採点対象	8
3.2	採点基準	8
3.3	公表方法	9
4	競技課題の概要	10
4.1	競技課題の構成	10
4.2	競技課題作成上の要求事項	11
4.3	競技課題の公表	11
4.4	競技課題の変更	11
5	職種限定規則	12
6	実施要領	13
7	競技スケジュール	13
8	支給材料	13
9	選手持参工具・材料	14
10	競技会場設備基準	15

1 はじめに

1.1 競技職種の名称

和裁

1.2 競技職種に関連する職務または職業の説明

成人式や結婚式など、特別な日には欠かせない服であり続けている和服。日本古来の民族衣装である和服は、“kimono”が国際的に運用する言葉となっているほど、ひとつのファッションとして世界に広く認知されています。また、近年は夏のイベントで浴衣を気軽に着る若い人も多くみられます。

着物は、長さ12.5メートルの反物から直線裁ちで、型紙を使わず手縫いで1枚の着物に仕立てあげます。

反物は多種多様、織り、染め、素材（正絹、綿、麻、近年ではポリエステル）と様々。生地や柄によって、縫い方を熟知し生地の裁断、縫製、仕上げまで専門的知識と技能を駆使し1枚の着物に縫い上げます。

着物の形はほぼ同じ形ですが、振袖、留袖、訪問着などの礼装と普段着の着物では袖の長さや形、比翼仕立てなど縫い方が変わります。これらは日本文化と深く結びついており和裁士には和裁の技能だけでなく日本文化の知識も必要とされます。

世界に誇れる和服の文化が受け継がれていくために、和裁士は大切な役割を担っています。

和服は茶道や華道、踊りなど、日本伝統文化に不可欠な衣装。和裁は、直線的な裁断・縫製でありながら多彩な美が表現され、技能者の腕の見せ所が満載の競技です。

競技では2日間にわたり9時間という競技時間内に小紋柄の女性用袷（あわせ）長着を製作します。時間の制約がある為、支給された反物を事前に指定された箇所まで縫い上げたところから始まります。すべて縫い上げ作品をたたみ上げた時点で仕上がりとなります。

2 技能五輪全国大会職業標準

2.1 技能五輪全国大会職業標準（項目及び配点率）

項目		配点率 (%)
1	作業の構成と管理	5
2	材料・道具の知識と取扱い	5
3	裁断・縫製技術	70
4	仕上げと品質管理	20

2.2 技能五輪全国大会職業標準（項目とその内容および相対重要性配点率(%)）

項目とその内容		相対重要性 配点率(%)
1	作業の構成と管理	5
	各自は、以下を知り理解する必要がある： ・ 業界用語、専門用語（和裁に関する技術用語と伝統的表現） ・ 効果的な作業計画、時間管理、工程順序の重要性 ・ 品質管理の重要性 ・ 継続的な技術向上の重要性 ・ 安全衛生規則と作業環境の基準 ・ 清潔で整理整頓された職場を維持することの重要性	
	各自は以下の能力を有すること： ・ 効率的な作業工程の計画を実行する ・ 品質基準を満たすよう常に自己管理する ・ 自主的に自身の知識やスキル(技能)を向上させる ・ 適切な道具を選択・準備し、安全に使用する ・ 安全で清潔な作業環境を維持する	
2	材料・道具の知識と取扱い	5
	各自は、以下を知り理解する必要がある： ・ 反物の種類と特性（正絹、綿、麻、ポリエステル等） ・ 和裁専用道具（くけ台、こて等）の名称と用途 ・ 基本道具（針、糸、ハサミ等）の特性と選択基準 ・ 材料の保管方法と適切な温湿度管理 ・ 道具の手入れと保守管理の方法	
	各自は以下の能力を有すること： ・ 素材を傷めることなく適切に取り扱う ・ 道具を安全・清潔に維持し、効果的に使用する ・ 材料の特性を理解し、適切な取扱いを行う	

3	裁断・縫製技術	70
	各自は、以下を知り理解する必要がある： ・ 着用者の正確な採寸方法（身丈、衿等） ・ 地のしの重要性と生地収縮性 ・ 適切な柄の配置決め ・ 正確で迅速な裁断技術とはさみの適切な使用法 ・ 体型に合わせた寸法割出しとへら付け(しるし付け)の技術 ・ 運針、くけ、糸こき、コテかけの和裁基本技法 ・ まつり縫い、ぐし縫い、すくい縫い等の縫い方と用途 ・ 各部位（衿、袖、身頃等）の縫製方法と順序	
	各自は以下の能力を有すること： ・ 用布を迅速かつ正確に見積もる ・ 反物の地のしを行い、生地の歪みをとる ・ 着用者の寸法に合わせ正確に裁断し、無駄を最小限に抑える ・ 迅速で正確なへら付け（しるし付け）を行う ・ 迅速でまっすぐな運針を行う ・ 均一で整った縫い目を一貫して作る ・ 糸と布のバランスを保つため、正確な糸こきを行う ・ 生地収縮性を考慮し、アタリ（テカリ）を防ぎながら極力一回で決めるコテかけを行う ・ 異なる性質の生地を縫い合わせる際は、つり合いを考慮して縫製する ・ 袷物の場合、表と裏のつり合いに配慮しとじ付ける ・ 格パーツを指定寸法に誤差なく正確に縫製する	
4	仕上げと品質管理	20
	各自は、以下を知り理解する必要がある： ・ 良い仕立てを見極める能力と基準の把握 ・ 専門的な仕上げ技術 ・ 寸法誤りや仕立て誤りの修正方法 ・ 入針を防ぐ針の管理方法 ・ 正しい畳み方とシワの防止方法 ・ 湿度調整と保管方法	

	各自は以下の能力を有すること： • 全体的な仕上がりを客観的に評価し、必要な修正を行う • 製作中や製作終了時に和服を効果的にプレスする • 仕立て線の整合性と左右対称性を確保する • シワが生じないように正しくたたみ、適切な湿度と通気性を保って保管する	
	合計	100

3 採点方法、採点基準とその配点、公表方法

3.1 採点対象

- イ) 仕様誤り
- ロ) できばえ
- ハ) 作業態度

3.2 採点基準

イ) 仕様誤り

- 衿先が本止めになっていないもの（※）
- 袖口布が回しがけになっていないもの（※）
- 三つ衿芯の入っていないもの（※）
- 白針になっているもの 1 目につき 1 点減点
- 引き糸が付いている場合、1 箇所につき 1 点減点

（※）各項目について以下の基準で減点する。

運営委員及び競技委員で協議の上、該当の度合いにより減点数を決定する。

ロ) できばえ

● 袖口・口下・丸み	10 点
● 袖丈・袖巾・振り	10 点
● 袖付け・身八つ口・衿のつりあい	10 点
● 表・裏直線縫い 身巾のつり合い	10 点
● 身頃の立てとじ かぶり	10 点
● つま・裾ぶき	10 点
● つま下	10 点
● 表衿つけ・共衿つけ	10 点
● 裏衿つけ・衿とじ	10 点
● 衿くけ・衿先	10 点

各項目について以下の基準で採点する。

10点：最もよい 9点：良い 8点：やや良い 7点：普通

6点：やや悪い それ以下は、0点とする。

ハ) 作業態度（不安全行動）

該当する場合は、運営委員及び競技委員で協議の上、減点することがある。

- 針・工具・材料等の取扱いが特によくはないもの
- 針・工具・材料等の整理整頓が特によくはないもの
- 他人に著しく迷惑をおよぼしたもの
- 自分でけがをしたもの
- 他人にけがをさせたもの
- 競技委員・補佐員の指示を守らなかったもの

3.3 公表方法

主催者が指定する方法において、参加選手本人による照会の場合のみ、原則として競技結果（順位、得点）を伝達する。

4 競技課題の概要

4.1 競技課題の構成

仕様に従って、競技時間内に女子用あわせ長着を仕立てる。

- 事前に縫い上げておく箇所は、次のとおりとする。
 - 右そで
 - えり先布と裏おくみのこはぎ
 - 裏身ごろは、胴裏、裾回し(八掛け)、胴はぎの縫製まで
(胴裏の背縫いは自由とする)

すべての箇所についてのしるし付け(チャコ、ヘラ等)、折り(スジ等)は、事前にしてきてよい。出来上りの折りも可とする。しるしとしるしの間隔も規定なし。

- 競技会場で行うものは、次のとおりとする。
 - 左そで
 - 表身ごろ
 - 裏身ごろのおくみ付けから仕上がりまで

4.2 競技課題作成上の要求事項

仕 様

仕立て寸法	身丈・・・背から4尺2寸
	袖丈・・・1尺3寸
	裾・・・1尺7寸5分
	袖巾・・・9寸
	袖付・・・6寸
	丸み・・・5分
	袖口・・・6寸
	後巾・・・8寸
	前巾・・・6寸5分
	抱巾・・・6寸5分
	衽巾・・・4寸
	合襖巾・・・3寸8分
	繰越・・・5分
	襖下・・・2尺1寸

前あげの量を約3寸(輪で1寸5分)、後あげの量を約4寸(輪で2寸)とする
その他の寸法は標準寸法に準ずる

4.3 競技課題の公表

事前公表の競技課題は、原則として技能五輪大会開催の3か月前に主催者ウェブサイトで公表する。

競技課題に関する質問は、参加選手に限り受付します。質問受付期間内に主催者ウェブサイトにて指定する方法で質問してください。

4.4 競技課題の変更

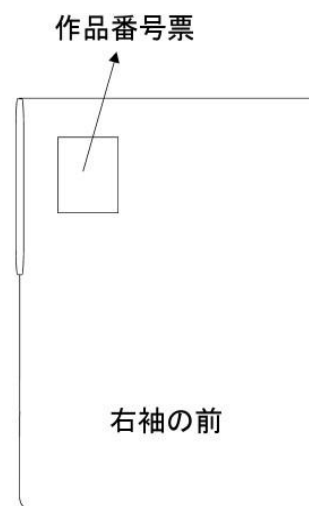
公表課題に変更がある場合は、主催者ウェブサイトで公表する。

5 職種限定規則

- (1) えりは、表裏別縫いとし、えり先は本止めとすること。ただし、えり先縫い代を表裏のおくみではさむこと。
- (2) 共えりは、別がけとする。ただし、くけは束ぐけでもよい。
- (3) そで口布は、回しがけとする。
- (4) 共えり及びつま下（えり下）のしつけは、事前に行ってきてはいけない。
- (5) しつけの種類は自由とする。（袖、共えり、裾、つま下には必ずしつけを掛ける。）
- (6) 三つえり芯の長さは8寸（30cm）以内とする

※三つえり芯を事前に付けてきてはいけない。

- (7) 裏えり、胸はぎの縫込みは、止めても止めなくてもよい。ただし、他の縫込み（裾も含む）は止めてはいけない。
- (8) 耳がつれる理由での切り込みはよしとする。ただし、耳を切り落としてはいけない。切り込みの深さは1分5厘までとする。
- (9) 作品番号票は、下図に示す位置に取れないように縫い付けること。ただし、縫い付ける時間は競技時間外とする。



6 実施要領

注意事項

- (1) 統一材料を使用し、仕立て寸法規定に従うこと。
- (2) 特殊加工（ガード加工など）はしないこと。
- (3) 使用工具等は「持参工具等一覧表」で指定したもの以外は、使用してはならない。
- (4) 競技中は、工具等の貸し借りを禁止する。
- (5) 競技開始前に、針に糸を通してはならない。
- (6) 作品をたたみ上げた時点をもって作業終了とする。
- (7) 競技終了時刻になった旨を知らされた場合は、直ちに作業をやめ、競技委員の指示に従うこと。
- (8) 作業時の服装等は、作業に適したものであること。
- (9) 競技エリアの絨毯内は土足厳禁とする。
- (10) 以上の注意事項に基づき、怪我のないよう十分注意して作業をすること。

7 競技スケジュール

競技時間 9時間（2日間）

1日目 競技 9:00～12:00 昼休み 12:00～12:45 競技 12:45～15:45

2日目 競技 9:00～12:00

8 支給材料

- ・小紋表地
- ・八掛
- ・胴裏

9 選手持参工具・材料

選手が持参するもの（数量欄は、特にことわりのない限り選手 1 人当たりの数量を示す）。

区分	品 名	規 格	数 量	備 考
材 料	表地	事前に配付した材料を持参のこと	1 枚分	仕様どおりに事前に裁断縫製したもの
	裏地	事前に配付した材料を持参のこと	1 枚分	仕様どおりに事前に裁断縫製したもの
	三つえり芯		8 寸(30 c m) 以内	
	すそ芯又はふきわた		適宜	
	糸		適宜	
工 具	コテ釜		1 台	
	コテ（2 本使用可）		1、2 本	

注意

その他、必要だと思われる裁縫用具一式を各自持参すること。

ただし、「アイロン（ベビーアイロンを含む）」、「霧吹き等他人に迷惑をかける恐れのあるもの」の持込みは禁止する。

10 競技会場設備基準

品 名	規 格	数 量	備 考
裁 ち 板	180cm×45cm×4.2cm	1 枚／1 人	足台の高さは1 5 c mないし 2 5 c mである。
作品番号票	6.5cm×4.5cm	1 枚／1 人	
座 布 団		1 枚／1 人	

注意

原則的として、記載の設備を使用すること。

ただし、身体的事情等により設備基準どおりの使用が困難な場合は、事前に申告し、運営委員会が承認した設備を使用することができる。

【事前申告先】

(一社)全国和裁着装団体連合会

TEL : 03-3816-1858

MAIL : info@zenwasai.com